



歩道をめぐる 「ご近所バトル」も民主主義で

今回は、私の自宅の前を通る道路についてのお話です。

この道は2車線道路で、バスも通る広く立派な道なのですが、歩道 (sidewalk) がありません。近所の他の道路には続々と歩道が作られてきたのに、私の自宅前にはないのは何故か？ 実は、歩道をつくるかどうかで6年前、この通りに面したご近所の意見が真二つになるバトルが勃発し、歩道反対派の勝利に終わったからなのです。



私は、11年前にワシントンDC内の現在の家に引っ越してきました。緑の多い住宅地で、ご近所さんもフレンドリー、大変気に入って住んでいます。そんな中で、約6年前に、その地域の道路に歩道をつくるための公共工事が始まりました。道路の端から奥行き10フィート (約3メートル) の土地は、個人ではなく市が所有しており、そこに歩道を作ります。

できあがると、下の写真のようになり、歩行者は安全になります。



しかし、これをできあがった状態でみるのではなく、できあがる前の状態でみると、下の写真のようになり、明らかに自宅の前庭 (フロントヤード) が削られてしまいます。



現実問題として、玄関先の敷地は道路端の市所有の部分を含め一体です。このため、個人所有の領域だけでなく、10フィート部分まで連続して花や木を植え、見栄えを良くしている家がけっこうあります。それらの人々は市の所有であることを知らず (あるいは知らぬふりをして) 道路の端ギリギリまでを自己都合で使っていますので、歩道が建設される

のは大ごとです。

自宅前の道路の隣まで歩道の建設が進み、次は自宅前の道路に歩道ができる、というところまで来たとき、その通りに面している住民の中でも最も庭いじりが好きで、道路端までキッチリと庭を作りこんでいるAさんが建設反対に動きました。Aさんは引退するまでは裁判官だったそうですから、「10フィート」のことを知らないはずはないのにもかかわらずです。

Aさんは、「歩道建設反対！」というプラカードを自費でつくり、同志のご近所さんたちに配り、10軒以上の家がプラカードを前庭に立てました。もちろん歩道賛成派もいますし、論争がヒートアップしテレビ局が取材にくるまでになりました。

最終的に、市の道路整備担当者と地域の議員もが出席して開く公聴会で決着をつけることになりました。そこでは、反対派の声が大きく、市から来た道路整備担当者がその公聴会ではっきりと、その道に歩道をつくる計画は現段階ではない、と説明して決着がつかしました。その道の隣の道路にはすでに歩道が作られていましたが、バスも通る2車線道路の自宅前の道に関しては、歩道建設計画そのものがなかったのです。それ以後も歩道建設計画が作られることはなく、したがって我が家の前の道路には歩道は作られないままとなりました。

それから6年後の今、新たに引っ越してきた子持ちの家族を中心に、歩道建設をめぐるバトルが再開されようとしています。その6年間に、我が家には子供が3人生まれ、私の方の状況も大きく様変わりしました。6年前には中立を心がけましたが、今回は我が家も歩道賛成派です。

先日、道沿いに住む歩道賛成派だけが呼ばれた秘密の集会がありました。主催者は、反対派に気づかれないよう賛成の署名を密かに集めていたそうで、それが道沿いに住む全家

庭の53%に達したため市に歩道建設の請願書を出すということでした。地区の議員も密かに呼ばれていて、ゆるいながらも「歩道建設実現決起集会」になりました。

とうとう歩道ができる、と嬉しくなりましたが、気持ちの中で引っ掛かるのはAさんです。Aさん宅では前庭全体を道路端ギリギリまで使って自分好みの庭を作っています。この庭を壊されたくないから、6年前にはプラカードまでつくって反対しました。元裁判官です。この人が反対してきたらどうするつもりなのかと「歩道建設実現決起集会」で問うたところ、会の主催者の返事はシンプルでした。「賛成が過半数を超えているのだから、市は請願を受け入れ、議会にかけて承認するだけ。民主主義なのだから、自分がいくら嫌でも意見を聞き入れてくれる人はいない」。最後に、“This is America”と言われました。

それを聞いて、マジョリティが勝つという民主主義の原則が、こんなところにまで徹底しているのだと不思議に感動してしまいました。私は反対派がゴネたときの対処法ばかり考えていたのですが、民主主義の原則に照らせばそんなことは考える必要がなかったのです。Aさんがあくまでも反対するなら、住民の半数以上から反対の署名を集めなければならないのです。そして反対署名を過半数から集められれば、反対派のAさんが勝ちます。

賛成派も反対派も一所懸命に票集めをし、多数決で決め、決まったら従う。民主主義の深い根付きを感じました。

筆者紹介

宮川良夫 (みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント
1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。
1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイビー特許業務法人を初めとして、世界7カ国(地域)にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子(孫?)育て。好きな言葉は「天地不仁」。